

九条の会

新津・小須戸「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://www7a.biglobe.ne.jp>

/~hiro-line/nk9jo/index.htm

新津・小須戸「九条の会」 結成一周年のつどい

とき 12月2日(土) 13:30~16:30
ところ 新津地区市民会館 第一会議室

記念講演 この目で見えてきた戦争と憲法9条

イラクで人質になり、死と向かいあう過酷な体験から語る戦争と貧困

フォトジャーナリスト 郡山総一郎さん

昨年の12月10日、「新津・小須戸9条の会」が結成されて、1周年を迎えようとしています。呼びかけ人・事務局合同会議(10/14)は、それを記念して「結成一周年のつどい」を計画しました。今回は結成集会の参加者180名を上回る200名以上の参加者を目標にしています。

戦後60年が過ぎ、改めて平和を考えるために「今、世界で起こっていることを知りたい」という思いから講師をお願いしました。

お誘い合わせて、多数の参加をお願いします。



プロフィール

1971年 宮崎県佐土原町生まれ 35歳

2001年 「イスラエルの現実」で読売写真大賞
奨励賞を受賞

2004年 イラクで取材中に高遠菜穂子さん、今
井紀明さんとともに拘束され、9日後
に解放された。

主な著書

『人質 イラク人質事件の嘘と実』〔ポプラ社〕

『未来ってなんですか ぼくがいちばん撮りた
かったもの』〔新日本出版社〕

『戦争の後にきたもの カンボジアが映す時
代』〔新日本出版社〕

『気づいたら、カメラ馬鹿』〔榎出版社〕

「一周年のつどい」を成功させるために
「協力券500円」を購入して下さい。

集会を成功させるために、500円の「参加協力券」
を発行します。お買い求めの上ご入場ください。事
務局員がお伺いしますので、購入と普及活動に取り
組んで頂くことをお願いいたします。

プログラム

コーラス(新津市民合唱団)

- 1 開会の挨拶
- 2 記念講演
「この目で見えてきた戦争と憲法9条」
フォトジャーナリスト 郡山総一郎
- 3 事務局からのお願い
- 4 閉会の挨拶

記念講演の後に、「青年の時間」や「交流の時
間」も企画折衝中です。

九条署名に取り組みましょう

新津・小須戸九条の会は、7月1日の呼びかけ
人・事務局の合同会議で、「憲法9条を守れ」の署
名運動を進めることにしました。会員の周りにいる
人たちに呼びかけ、地域や職場で広く署名運動を
進めましょう。

その後、事務局に署名用紙が返送されてきて
います。まだそんなに多くはありませんので、
ぜひ取り組みを強めてください。

『県9条の会』全県交流集会の報告

多彩な活動の交流集会でした 新津・小須戸「9条の会」事務局 庭田盛範

8月26日、「県9条の会」全県交流集会が県民会館で開催されました。工藤事務局長より県内の9条の会は89(地域:76、分野別:9、職場:4)となり、更に無数の9条の会をつくっていく努力が求められると報告がありました。

世話人代表の川村正敏弁護士、河内さくら料理研究家のあいさつがあり、河内さんは「戦争を知らない人が多くなり、戦争の悲惨さが忘れられてはいけない。真に何が大事かを明らかにし、心に染みとおる平和と9条を守る小さな輪を大きく広げねばならない」と強調されました。

交流会では、6つの「九条の会」が報告しました。阿賀野の会では、地域小集会の開催、お盆過ぎから「お寺参り」を行い、住職に入会してもらった。五十嵐の会では、町内を二人組で各戸訪問し、賛同署名に取り組み、ほぼ全戸から署名が寄せられ、過半数の可能性が察せられた。糸魚川では、学習会を市内各地域で開催、文化的なものを取り入れた地域集会の貴重な経験が報告されました。

会場発言では、6つの会から発言がありました。新津・小須戸「9条の会」は私が発言し、『新津・小須戸9条の会のあゆみと課題』について報告しました。

最後のまとめでは、「九条の会」の活動は、参加者の層が広がっている 活動は多様になっている(文化活動との結合) 国民の学習運動になってきている ニュースの発行が重要であることなどが強調されました。

呼びかけ人会議(10/14)の発言から

先日、井上ひさしの「子供につたえる日本国憲法」という本をいろいろ感心して読んだ。「憲法というのは、理念である」ということが書いてある。私も子供の頃、同じように感じた。これは理念であり、絶対平和であり、一切戦争をしない。他の国は自分の国を守るためには、軍隊を持つけれど、私たちはそれを止めたのだ。これは、大変なことであり、大変な覚悟があることだけでも、それを決めたのだ。それが「私たちの憲法である」ことに当時、感動していたのを思い出しました。

日本は絶対に戦争をしないし、そのために、どんなひどい目にあってもいいのだ、と覚悟を決めたと思っていた。そのことによって、日本は世界から評価をされる。それが憲法であると思ってきました。

それが、いつの間にか「自衛のためなら軍隊を持つ」ということが、まかり通るようになってきた。私は原点にもどって立ち返るべきだと思う。この本は「子供につたえる」と書いてあるが、大人が読むべき本であると思います。特に小賢しい理屈をつける評論家たちには、是非読ませたい本だと思います。

この短文は、斎川長三さんの発言を、中島のメモから稿を起したものです。 文責 中島哲宏

悪夢 岸信介の孫 星山 圭

かつて岸信介という首相がいました。日米安保条約改悪など、戦後日本を悪い方向に導くのに中心的役割を果たした人物です。戦時中は東条内閣の商工大臣をつとめ、太平洋戦争開戦の詔書にも署名しています。敗戦後A級戦犯としてアメリカ軍に捕らえられ、巣鴨拘置所に入れられました。しかし、しぶとく生き残って首相まで上りつめたのです。ヒトラー・ナチスの戦犯になった大臣が、戦後ドイツの首相になることなど考えられるのでしょうか。国会で戦時中の中国人強制連行の責任を追及されると、「イヤ、あれは中国人が自分の意思できた」のだと。もちろん、ウソは承知、なにしろ強制連行の閣議決定に大臣として署名しているのですから。平気でウソをつく政治家。ところが、今度こういう男を尊敬すると公言してはばからない人物が、首相になってしまいました。岸信介の孫、安倍晋三。案の定、政策の第一にかかげたのが五年以内に改憲。国民がいま求めているのは、深刻化する不安の解消や、ひろがりつづける格差の是正であって、改憲などではありません。

日本も核武装すべきだとブツタことのある極右、危ない政治家に日本の運命をまかせるわけにはいきません。

呼びかけ人会議(10/14)に欠席された呼びかけ人からのコメント

「そんなことありえない、まさかと言っているうちに、本当に戦争の出来る国になってしまうような気がしてきました。(T.W)

「9条」を守ることは当然のこと……。そんな考え方をする市民・仲間がもっともっと集まるように願っております。(N.H)

一人でも多くの方に憲法をもう一度読んでもらいたいですね。戦争とあらそい、どう違うのでしょうか。しらべましょう。9条についてももっともっと知って欲しい。(S.S)

